

第10回 住宅系 研究報告会

会場：建築会館会議室

2015年12月4日(金)、12月5日(土)

昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を目的に、第10回目住宅系研究報告会を開催します。

発表論文は27編、優れた論文が集まりました。報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを目指しています。

第一日目夕方には、パネルディスカッションを開催し、総合的な議論の機会を設けます。

住宅・住宅系まちづくりの研究に取り組む研究者・大学院生の、多数のご参加をお待ちしています。

□1日目 (12月4日)

開会挨拶・主旨説明：藤岡泰寛(横浜国立大学) 10:00～10:15 (C)コメンテーター

セッション1 [住宅地の像と作り手のビジョン] 10:15～11:30 4編 (C)花里 俊廣(筑波大学)

セッション2 [集落の地域性と空間構成] 12:50～14:05 4編 (C)瀬沼 頼子(昭和女子大学)

セッション3 [復興とすまいの諸相] 14:15～15:45 5編 (C)鈴木 雅之(千葉大学)

パネルディスカッション 16:00～18:00

【テーマ】「地域に「住ま・ふ」ためのストック考 ―住宅系研究の次の10年を見据えて―」

【趣旨】

空き家の増加、少子超高齢社会の到来、災害からの居住回復等、私たちをとりまく環境が大きく変わり、これまでよりどころ、あるいは前提としてきた枠組みが問い直されようとしている。住宅系研究報告会としては、ここであらためて「住む」ことの本質に立ち返り、次の10年を見据える機会としたい。「住ま・ふ」とは「住む」という行為に「ふ」という反復・継続の助動詞を加えた表現として、時間と空間の概念を同時に含む言葉であり、本シンポジウムを読み解く手がかりとしたい。パネリストからは、転換期における居住問題あるいは可能性の所在と住宅ストックのあり方、具体的実践などについて報告をいただくとともに、今後の住宅系研究における展開方向について、会場の研究者らと議論を交わしたい。

【パネラー】

- 1) 生田京子(名城大学) : 施設と住宅の境界の模索から
- 2) 宮原真美子(日本女子大学) : 異世代ホームシェアの実際から
- 3) 野田明宏(LLC住まいまちづくりデザインワークス) : 居住・商業とにぎわい復興の実践から

【コーディネータ】

藤岡泰寛(横浜国立大学)

懇親会

18:30～

□2日目 (12月5日)

セッション4 [コミュニティ活動と空間・地域づくり] 10:15～11:45 5編 (C)岡 絵理子(関西大学)

セッション5 [団地と集合住宅のいま] 13:00～14:30 5編 (C)碓田 智子(大阪教育大学)

セッション6 [ライフスタイルと住まいの課題] 14:40～15:55 4編 (C)山本 幸子(筑波大学)

閉会の挨拶：高井 宏之(名城大学) 16:00～16:10

●参加費：会員 3,000 円、会員外 4,000 円、学生 1,500 円

●資料代：5,000 円 ●定員：90 名(当日先着順)